

Presented by  
フラウンホーファー・ハインリッヒ・ヘルツ研究所 & 構造計画研究所

# 最新 3D ディスプレイ

## 体験ワークショップ



この度構造計画研究所では、欧州最大の応用研究機関であるフラウンホーファー研究所の最新研究成果の一端、メガネ不要の3Dディスプレイに関する最新状況及び今後の開発計画をご紹介しますと共に、実際の3Dディスプレイを体感いただくことのできるワークショップを開催いたします。

3Dディスプレイが次世代の可視化技術としてどんな可能性を秘めているか、また、どのような産業分野で適用可能か、ワークショップを通じて知見を深めていただけます。ヨーロッパの最先端の映像技術を体感できるこの機会をぜひご活用下さいませよう、ここにご招待申し上げます。

日時

**2013 4.25 Thursday**

**15:00~18:00**

(受付開始 14:30 - 懇親会 17:00-18:00)

場所

**株式会社構造計画研究所**

**本所新館 レクチャールーム**

(丸ノ内線 新中野駅徒歩1分)

15:00-15:20

ご挨拶

構造計画研究所 取締役 岩尾 俊二

15:20-15:35

**Fraunhofer 研究所のご紹介**

Speaker

フラウンホーファー HHI, Head of Strategic Marketing  
**Dr. Michael Witte**



Profile

フラウンホーファー研究所 テレコミュニケーション分野、ハインリッヒ・ヘルツ研究所 (HHI) のマーケティング戦略部門の責任者。HHI 全組織の開発及びオペレーションを掌握するとともに、パートナー開拓や新規ビジネスの発掘を担当する。前職では、Robert Bosch GmbH や Coopers&Lybrand、BDO などの通信及びコンサルティング会社でコンサルタント及びマーケティング責任者としてのキャリアを積む。

15:35-15:55

**3次元可視化技術の最新状況と展望**

Speaker

フラウンホーファー HHI, Head of Interactive Media and Human Factors

**Dr. Ulrich Leiner**



Profile

2007年より HHI インタラクティブメディア & ヒューマンファクター部の責任者として、直感的なインターフェースの研究をマネジメント。研究内容には、3次元ディスプレイやタッチレス操作、マルチメディア検索などが挙げられる。前職では、Siemens のテクノロジー部門で研究者としてヒューマン・マシン・インターフェースを研究。Siemens Mobile 及び BenQ 社では携帯電話や固定通信機器のユーザーエクスペリエンス部門を率い、1億台以上にわたる電話機のユーザーインターフェースを提供する。

15:55-16:15

**多視点対応の3次元表示とその適用例**  
～エンターテインメントから医療分野への展開～

Speaker

フラウンホーファー HHI, Head of Image Processing

**Dr. Ralf Schäfer**



Profile

1989年より HHI 画像処理部のマネージャーとして 75名の研究者及び技術者を率いる。画像や動画、撮影から表示まで、またアルゴリズムから素材まで幅広い分野に深い見識を持つ。ドイツ情報技術協会 (ITG) に所属し、デジタルコーティング専門家グループの委員長を務める。ドイツテレビ・映画技術協会 (FKTG) では URTEL 賞委員会に所属。受賞歴には、1986年の ITG 論文賞、2000年の FKTG リチャード・タイレ勲章受賞などが挙げられる。

16:15-17:00

**デモンストレーション、Q&A**

17:00-18:00

**懇親会** (講師陣との情報交換の場としてご活用下さい。)

### 本ワークショップのポイント

- ▶ 3次元ディスプレイのトレンドや最新技術を紹介
- ▶ 医療分野での適用例を3次元ディスプレイ上で体感
- ▶ 当分野で著名な研究者との意見交換

※ワークショップは英語で行われますが、必要に応じて通訳サポートをご提供します。

### フラウンホーファー・ハインリッヒ・ヘルツ研究所とは

フラウンホーファー・ハインリッヒ・ヘルツ研究所 (Fraunhofer Heinrich Hertz Institute) では最先端のコミュニケーションシステム、デジタルメディア、そしてサービス活用の研究開発を行なっています。特に、3次元可視化と体感技術、コンテンツ生成、そして医療・セキュリティ産業における映像変換サービスの開発に取り組んでいます。HHI は数多くの名誉ある国際賞を受賞しており、デジタル技術分野の先導的研究機関とも言えます。エミー賞を受賞したビデオエンコーディングアルゴリズムは、今では業界標準として世界に認められています。

# 最先端の3次元可視化技術

## Fraunhofer・Hainrich・ヘルツ研究所、3次元技術の集大成

**3次元映像収録：**メガネを必要としない次世代の3次元映像制作は、これまでにHHIが開発してきた、さまざまな複数カメラの制御技術が駆使されています。たとえば、三焦点収録技術（“Trifocal Depth Capture”）は、通常の2次元カメラに最小限の追加費用で、正確な深度マップの収録が行えます。また、HHI独自の立体解析ツール（“STAN”）は、リアルタイムで立体映像の解析を行うことができます。

**3次元映像符号化：**SVC（スケーラブル映像符号化規格）とMVC（多視点映像符号化規格）を組み合わせることで、高品質のHDTVや3DTVサービスを、低コストでかつ、高い安定性の下で提供することができます。またHHIではMPEG-DASHと呼ばれる、将来の映像コーデックにも対応したオーサリングソフトを提供しています。

**3次元映像変換サービス：**HHIでは、あらゆる種類の既存3次元ディスプレイに映像データを変換するサービスを提供しています。当研究所の開発した、二視点から、多視点へのリアルタイム変換技術を使えば、3Dブルーレイを再生しながら、リアルタイムに別方式のディスプレイでご覧いただくこともできます。

**3次元映像伝送：**マルチユーザーアプリケーション向けに、LTE-Aを介した2次元、3次元映像伝送を実現しました。

**3次元映像の規格化：**Fraunhofer HHIでは、テレビ、映画、モバイルなど様々な用途の3D映像コーデックを開発しています。これらのコーデックの中には、多視点深度（MVD）圧縮規格や、次世代映像圧縮規格（HEVC）など新しい方式の規格ツールなども含まれています。

**次世代3次元ディスプレイ技術：**HHIの3次元技術により、1つのスクリーン上で単数・複数ユーザー機能を兼ね備えることが可能になり、多機能一体型のディスプレイという全く新しい3次元ディスプレイが誕生しました。また最新のディスプレイでは、電子的な調整により、自動的に最適な視聴距離を見つけ出せます。

**3次元体感技術：**HHIでは人間が直感的に行動することで、映像内のコンテンツにアクセスできるような、新たな3次元映像のインターフェース技術を開発しています。HHIが開発した、手の高速トラッキング技術や、ジェスチャー認識技術を用いれば、3次元映像を観ているユーザーは、特別な入力機器を使うことなく、仮想空間内で自由に行動できるようになります。

**3次元ユーザビリティ：**HHIでは、常にマーケットのニーズに基づき、利用者が真に必要なとしている価値を重視して、3次元技術の開発を行っています。

詳細は下記 web ページでご覧いただけます。  
[www.hhi.fraunhofer.de](http://www.hhi.fraunhofer.de)

Webからの  
お申込み

<http://www.kke.co.jp/3dworkshop>

Faxからの  
お申込み

**03-5342-1053**

下記枠内に必要事項をご記入の上、FAXにてお送りください。

最新 3D ディスプレイ体験ワークショップに参加します

▼ ご記入またはお名刺をお貼りください。

貴社名

所属・役職

お名前

所在地

名 刺

TEL:

FAX:

E-mail

お申し込み期限

**4月18日(木)迄**

お問い合わせ

株式会社構造計画研究所

海外・マーケティング戦略部 3Dディスプレイ体験ワークショップ担当 高島

TEL: 03-5342-1006 FAX: 03-5342-1053 E-mail: seminarinfo@kke.co.jp

お客様が当社に提供された氏名・年齢・住所・電話番号等の個人情報は、当社の製品・ソリューションなどの情報提供や営業などの目的で使用させて頂く場合がございます。あらかじめご了承下さい。お客様が、ご自身の個人情報の内容について照会又は変更をご希望される場合、あるいは当社による個人情報の利用の中止をご希望される場合には、下記宛に御連絡下さい。

■株式会社構造計画研究所 個人情報保護相談窓口 E-mail:p-cc@kke.co.jp